

日々の祈り

2021年12月20日(月)~25日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・この世に来て下さった救い主イエスさまを、心から受け入れる者となる事が出来るように。
- ・一人でも多くの者が、共にクリスマスの恵みを受け取る事が出来るように。
- ・教会の「アドベントブック」に従って、兄弟姉妹の名前をあげてお祈りしましょう。

20日(月)

マタイによる福音書 2章 9~11節

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。クリスマスです。神の御子イエスさまが、救いを実現して平和の王となるために、この世にお生まれになりました。わたしたちは、このお方をどのようにお迎えするかが問われています。自分こそが王であると思っている者は、このまことの王を邪魔に思って抹殺しようとしてきました。この方をまことの王として受け入れる者は、自分が王であることをやめてこの方を礼拝し、自分の最も大切な宝物を贈りました。わたしたちはこのお方を、どのようにお迎えしているのでしょうか。

21日(火)

ルカによる福音書 2章 26~30節

そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」

シメオンは幼子イエスさまを、その腕に「メシア」として迎えました。そして神さまに「今こそ、この僕を安らかに去らせてくださる」と言ったのです。「去る」は、死ぬという意味と、解放という意味があります。この幼子は、わたしたちをまことの平安へと解放して下さる方なのです。

22日(水)

ルカによる福音書 2章 11節

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

イエスさまがお生まれになった夜、天使は野宿をしていた羊飼いたちに現れ、こう言いました、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」わたしたちのために、救い主がお生まれになりました。お生まれになったこの乳飲み子は「主メシア」であり、わたしたちの罪を贖うために、わたしたちを滅びから救い、永遠の命を与えるために、そして、わたしたちの平和の主となられるために、お生まれになりました。

23日(木)

イザヤ書 61章 1節

主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。

次の主日礼拝の御言葉です。油注がれた者(=メシア)とは、神さまの特別な務めに任命された者のことです。ユダヤ人の間では、民を救う務めを担う救い主を、メシアとして待望していました。やがて、ナザレのイエスという方がこの世に来られ、貧しい人に良い知らせを伝えて下さり、打ち砕かれた心を包んで下さり、罪に捕らわれた人に自由を与え、死につながれている人に解放を告げて下さいました。イエスさまは、わたしたちに問われます。「あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」(ルカ 9:20) わたしをメシアと信じるか、と。

24日(金)クリスマスイブ礼拝

ルカによる福音書 1章 28、37、38

天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」…

「神にできないことは何一つない。」

マリアは言った。「わたしは主のはしめです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」天使がマリアに告げた言葉です。天使は続けて、聖霊によって処女のマリアが身ごもる、と驚くべきことを予告しました。とても恵みとは思えない、困難と悩みに満ちたお告げです。しかしそこには、その子が救い主としてすべての人の救いを実現する、主があなたと共におられる、という確かな約束が伴っていました。そして、「神にできないことは何一つない」と。マリアはこの神さまの確かな恵みの約束に、全てをお委ねしたのです。わたしたちは今、そうして神さまが約束を守り、確かに実現してくださった恵みの只中に置かれています。

25日(土)(クリスマス)

ルカによる福音書 20章 1~2節

ある日、イエスが神殿の境内で民衆に教え、福音を告げ知らせておられると、祭司長や律法学者たちが、長老たちと一緒に近づいて来て、言った。「我々に言いなさい。何の権威でこのようなことをしているのか。その権威を与えたのはだれか。」

明日の主日礼拝の御言葉です。祭司長や律法学者たち、長老たちは、権威ある人々です。イエスさまが権威をもって何かを教えたりするのであれば、自分たちこそ、その権威を与える者であると考えています。しかし、神の御子イエスさまの権威は「天からのもの」であり、神の権威です。イエスさまの教えと御業がそれを証明しています。本当はここで、イエスさまに問うた者たちの方こそが、そのことを信じるか信じないかを問われているのです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』